校長室から

甘利　尚之

12 月 16 日（木）No.6

「わたしたちの学校じまん」
～3 年生　総合的な学習の時間～

３年生は、長野大学の企業情報学部のＭ先生の協力の下、サポーターとして学生のＳさん、Ｉさん、Ｋさんにお手伝いをいただきながら、「わたしたちの学校じまん」の学習を進め、先週金曜日、その発表会を行いました。

一人一人が、塩尻小の敷地内にある「自慢できるもの」を探し、クロムブック（コンピュータ）を使って写真を撮り、説明を書き入れて「記事」を完成させていきました。私は、その学習の全てを参観できたわけではなかったですが、クロムブックを持ち、ニコニコ顔で、あるいは真剣な表情で、普段見慣れた学校内の「自慢」を捜し歩いている３年生の姿に、小学校の子どもたちにとってはやはり「現場が一番（体と学びはつながっている）」を思いました。

発表されたものを見てみると、子どもたちなりの視点・気づきの面白さをまず感じます。そして、その子が何を、どんなことを大事にして学校生活を送っているのかといったことが伝わってきます。

ある子は、「武ちゃんハウス（庁務員さんの作業場です）」をあげました。きっと、器用な庁務員さんが様々な「作品」を見せたり、それで遊ばせたりしてくれる場所は、一番の自慢なのでしょう。「蓮池」をあげた子も何人かいます。夏場、ザリガニ釣りをした蓮池は、ザリガニが見えなくなった今も大切な場所なのでしょう。その他、「石廊下の模様」「図書館のぬいぐるみ」「校舎の壁の模様（しみ）」「体育館」等々、思い入れは様々です。

私は、「地域の自慢」ができる子どもたちを育てたいと思っています。そのためには、地域を知ること、地域に触れること、そしてその「よさの実感」をもたせていくことが必要だと考えています。更に、それを小学生の「学び」とするためには、興味関心・必要感・きっかけ…が大事です。そして、それをもたらすものが、温かな地域の方々から直接学ぶことのできる機会ではないかと思います。コロナの状況がよくなり、今後、そういった機会が増えていくことを心から望んでいます。